

業界が一丸となって 山梨県産ワインをPR

県産ブドウの甲州やマスカット・ベリーAでつくられた新酒ワインによる「山梨ヌーボー」の解禁日の11月3日にあわせ、山梨県ワイン酒造組合（安蔵光弘会長）は、イトーヨーカドー甲府昭和店で県内33ワイナリーによる試飲・販売会を開催した。

例年、東京・日比谷公園などで「山梨ヌーボーまつり」を大規模に開いていたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い東京でのイベントは2年にわたり中止していた。首都圏での緊急事態宣言の解除、飲食店への営業時間短縮とアルコール提供の停止がおよそ11カ月ぶりに解除され、秋の行楽シーズンも重なったことか



ら今回の企画開催となった。

セレモニーでは、山梨県のワイン県副知事に

山梨県ワイン酒造組合 山梨県ワイン酒造協同組合

就任している日本ソムリエ協会の田崎真也会長と安蔵光弘会長によるトークショーが行われ、料理とワインの合わせ方など、ワインの楽しみ方について語られた。

また、国の地理的表示（GI）制度により「山梨」と表示できる20種類の山梨県産ワインを一同に集め、山梨県ワイン酒造協同組合（三澤茂計理事長）が「YAMANASHI WINE FESTA2021」を常盤ホテルと連携して11月5日から約1ヶ月開催した。金・土曜には「Special Day」を設け、ワイナリー8社が蔵自慢の逸品を振る舞った。期間中に常盤ホテルに滞在したお客様に山梨県産のワインを知ってもらうための試飲サービスも併せて行われた。県外から訪れた女性客は、「思いがけずに山梨県産ワインを楽しめて感激した。甲州種のワインは飲みやすいので、お土産に購入したい。」とコメントが寄せられた。

2つのイベントとも、待ちかねた愛飲家らが味や香りを確かめながら、それぞれお気に入りのワインを楽しむ華やかなものとなった。

